

T: はい, じゃ, お久しぶりです。
I: あ, 久しぶりです {笑}。
T: はい {笑}。
えー, 結構待たせちゃいました?。
何時ごろいらしたん...
I: あ, そうでもないけど <あ>。
あの, 少し【人名1】さんと <はい> いろいろ話して <はい>, はい。
T: えーと, 1年ぶり。
I: 1年。
きょーねん [去年] も同じ時期ですか?。
T: 頃ですよ。
I: あー <はい>, 夏 <はい> 休みですね。
T: はいはい。
あ <はい>, 夏休み。
たぶん9月のはじめだったかな。
I: 秋...
T: はいはいはい。
I: の時期かな, はい。
T: はい。
えー, どうですか, 1年間。
この1年間, どんなことがありましたか {笑} ?。
I: あ, なんかこと < {笑} > ありましたかって, いや, あの, 生活の中は, あの, うちの息子,
5年生になって <はい>, 部活で頑張ることができました。
あの, レギュラーになりました。
T: ふーん。
え, 部活, なんの部活?。
I: 野球です。
T: おー, レギュラー。
I: だから, はい <はい>, 夫婦も忙しくて <はい>, はい。
T: う...
I: 毎週, 練習試合というか <はい>, はい。
お母さんも一生懸命, 制服で, 野球のユニフォーム <はい>, 毎日 <はい> この手で洗いま
した {笑}。
T: 手で洗わないといけないんですか?。
I: いや, うちの国は, みんな同じですね。
ブラシもしないで <はい>, ほんとに手で, こう {手を擦り合わせる}, やるんですね。
T: あ, フィリピンでは?。
I: フィリピンですね <はい>, はい。
で, 日本人のお母さん, いろいろ聞いたんですけども <ええ, ええ>, 1回, はらって [洗っ
て] <はい>, 洗濯, 洗濯機で <はい> 回して。

T： はい。

I： はい。

で、あの、どうしても汚れがひどいときは、1回お湯で、あー、何分とか〈はい〉、例えば長くても1時間ぐらいおいて〈はい〉、で、あ、大丈夫なと思ったら〈はい〉洗濯機に入れて〈ふーん〉、回す。

わ、わからないけど。

でも〈はい〉、うちの国はほとんど。

たぶん昔はね、洗濯機ないから〈ええ、ええ〉、はい〈はい〉、そういう育て方に、な、なりましたから〈はい〉、はい。

T： じゃ、ま、毎日まだ今も...

I： うん、毎日ですね、はい。

T： 手で洗ってる。

I： じゃ、今帰ってきて〈はい〉、あの、ユニフォームは2セットだけだから。

T： はい。

I： はい。

やっぱり〈はー〉、毎日〈はい〉洗わないと間に合わないです。

T： で、えー、洗濯機じゃなくて手で洗うのには、なんか、その、フィリピンでやってたっていう以外の理由があるんですか、【I】さんは{笑}？。

I： いや、あたしに対しては、いつも、うちの息子がね〈はい〉、毎日のようなわたしの背中見て、お風呂場で〈はい〉、こう、大きい、なんというかな、たら、たらというか、何と言うんですか、こういう大きい洗面器ではないけど、大きい？。

T： あー、たらい？。

I： たらい。

T： はい。

I： 一生懸命。

で、お母さん大変ですね、って〈ええ、ええ〉。

いくらでも何分でも洗いますよ〈{笑}〉、あなた頑張れば大丈夫ですよー、って〈あー、はい〉。

そういう、はい。

T： あ、そういうふう...

I： なんか、たぶん、わたしの背中見れば〈はい〉、大変じゃないですか〈あー〉、うちの息子〈はい〉、と思うんですね〈はいはい〉。

やっぱり、こう、こういう姿見て〈はい〉、腰曲がって{笑}〈はい〉、洗面所あるんですけども〈はい〉、やっぱりたらいは大きいから。

T： はい。

I： はい〈あー〉。

お風呂場で一生懸命〈あー〉、あの、こういう石鹸〈はい、はい〉っていう、頑固汚れ用の{笑}。

T： ふーん。

じゃ、その、手で洗うことで、なんか、伝えたいメッセージがあるんですね、息子さん？。

I： そうですね。

T： どういうことでしょうか、それは？。

I： やっぱり、お母さんが一生懸命、あなたの野球のユニフォーム、一生懸命洗ってるから〈うん〉、す、これは当たり前のことなんです。

でも〈うん〉、息子に伝えたいことは、頑張ってちょうだい〈うーん〉、いくらでも洗うから {笑} 〈 {笑} 〉、いくら汚れても〈うん〉洗うから、あなたのためにやってるんですよって〈ふーん〉、うーん。

でも、あの、うちの主人がね〈はい〉、あまりきれいにすれば、周り見ればね、うん、頑張らないねって。とってもきれいからって {笑}。

ほんとに真っ白ですよ。

T： あー、毎日、真っ白。

I： 毎日。

T： はい。

I： はい〈 {笑} 〉。

みんなはね、軽くでもいいんですよって〈はい〉。

なんか、気持ちがね、そういう、あー、まだ、少し染みあるねって〈はい〉、たぶんそういう、何て言うかな〈はい〉、はい〈はー〉。

だから、ちょこっとのし、染みでもあれば、あ、まだだなんて〈あー〉、白くなるまで {笑}。

T： じゃ、【I】さんの楽しみなんですか {笑}。

I： そうですね〈うん〉、はい。

明日も練習試合あるので〈はい〉。

はや、早く、でも、天気見れば、ちょっと〈んー〉、やばいというか、はい、大雨だったら中止かもしれないし。

T： 練習試合は、どこでやるんですか？。

I： あの、【地名1】の近くです〈ふーん〉。

スタジオあるから〈はい〉、【施設名1】という。

T： ど、こっから、どうやってそこまで行くんですか？。

I： ここから車で、ここからたぶん10分〈んー〉、【施設名2】わかりますか？。

T： 【施設名2】、わからないんですけど、なんか、ちょっと、簡単に道筋を説明してもらってもいいですか？。

I： じゃ、ここ、こ、ここから〈はい〉、まっすぐ行けば...

T： どっち向きに？。

I： あの、【施設名3】向きぎ〈はい、はい〉、まっすぐ行けば、橋、あるんですね〈はいはい〉。

で、【施設名4】、病院は右側です〈はい〉。

で、【施設名4】とおって〈はい〉、わたしの場合は、左まが、あ、【施設名4】、ちょっと前で〈はい〉、左曲がります〈はい〉。

で、まっすぐですよ〈はい〉。

で、たぶん、あたしのお友だちは〈はい〉、あの、息子のお友だちのお母さんたち〈はい〉、

違う道かもしれない。

T： ふーん。

I： はい。

でも、あたしの、こういう、通り道だから〈うん〉、簡単なと思いました。

T： うん。

I： はい。

T： 道を選ぶのになにか...

I： いや。

T： 理由はありますか？。

I： ほかねの、お母さんたちはね、橋、わ、わた、わた、渡ったら〈はい〉というか、ちょっと過ぎたら左曲がります。

わたしはもうちょっと過ぎ、過ぎたら〈はい〉、左曲がります。

T： はい。

どうしてですか？。

I： まっすぐですから。

T： はい {笑}。

I： {笑}、たぶん、ほ、ほかねのお母さんたちは、左曲がっても、たぶん2回、まっすぐではないですね〈あー〉。

わたしの場合は、まっすぐなほうがいい。

あの、簡単な道。

T： はい。

I： はい。

T： で、ここ、【地名2】だと車がないとやっぱり動けないん...

I： そうですね、はい〈うん〉。

バスは乗ってもいいですけども、やっぱり時間。

T： はい。

I： はい。

東京みたいにじゃないから、東京だったら何分間の、すぐあるんですね。

T： はいはい。

I： はい。

じゃ、あの、最初のバス、い、い、行っても、また〈はい〉、3分待ってればまたあるんですね〈はい〉、バスは〈はい〉。

【地名2】は、じゃないですね、やっぱり。

T： ふーん。

そうすると、お年寄りで運転できないかとかは、大変じゃないですか？。

I： そうですね。

でも、最近、あーいうマークがね、なんていうマークですね、あの、若葉マークではないけど、ちょっと、なんて言うんですね、年寄りのマーク〈はい〉、なん、なんていうマークかな？。

T： もみじマークっていう...

I： もみじマークっていうか、黄色いとオレンジの...

T： オレンジ、はい。

I： はい。

結構〈はい〉いるので〈ふーん〉、あたしはね、最近、あれ、お年寄りにも〈うん〉運転して
るな〈うーん〉と思ったんですよ、はい。

T： でも、例えば、80歳ぐらいで運動神経が遅くな、あの、あんまり良くなくなってきて、運転
してたら危なくないですか？。

I： そうですね〈うん〉。

危ないというか、やっぱり無理ささないほうがいいんですね〈うん〉、運転、はい。

T： そうすると、生活していくのに大変じゃないですか、ここ？。

I： いや、みんなたぶんタクセ [タクシー] で〈うん〉、かよってるんですか、病院に行くとき
は。

T： うん、うん。

I： はい。

それで、誰の力、借りてるかな。

例えば、お嫁さんの力とか〈うん〉、孫 {笑} の力とか。

T： うん。

I： はい。

と思います。

T： やっぱり、そういう家族関係が、ここはまだしっかり残ってる。

I： あたしはね、そういう生活環境は、内容は、あんまりわからないけども、お友だちからいろい
ろ聞いた話。

T： はい。

I： はい。

というか、大変というか、いろいろな話、聞いてるんですけども〈あ、はい〉、いつも、あな
たのかそく [家族] いいね、3人で暮らしてるから、羨ましいね〈はい〉。

どこまで、うら、羨ましいというか〈はい〉、いや、やっぱり、あの、お姑さんいないと〈は
い〉、楽じゃないかな、みんな。

なんていうかな、羨ましいながら、言ってるんですよ。

T： はい、はい。

I： はい。

で、みんな集まっても、5時前に帰れないきゃいけないんですよ〈はい〉。

あの、ご飯の支度とか〈はい〉。

でも、あたしはね、そういう、なんていうかな、そういう、ばに、ではないけど、あの、時間
は関係なくじゃなくて、あんまり気にしない〈はい〉。

あ、あ、5時ですねってみんなは、あ、5時前帰らなきゃいけないね。

たぶんおしゅとさん、なんか言うんよねって〈うーん〉、5時過ぎ〈はい〉帰って、帰ってき
たら〈はいはい〉、やっぱり、ご飯の支度しなきゃいけないし〈はい〉、お風呂の準備も〈{笑}〉
やらなきゃいけないし〈うん〉、【I】さんいいねって。

じゃ、でも、あたしも同じですよ〈うん〉って。

これから、ちょこっと買い物〈かいもん〉に行こかな、ちょっと足りないからって。

うん、でも、いいねって〈うん〉。

何作っても、あたしたちはね、聞きながら、お母さん、今日何食べたい〈うん〉と言う。

T： はい。

I： うん。

T： で...

I： じゃ、あたしもたまに、そういう、あの、パターンもあるんですよって。

T： え？。

そういう？。

I： そういうパターン〈はい〉。

例えば、あの、息子さんに今日何食べたい〈{笑}〉、オムライスかな、シチューかな〈あ〉、はい。

T： はい。

普通はご自分で献立を考えられる。

I： そうですね、はい。

T： ふーん。

I： はい。

T： えっと、ご主人は、お仕事は、どん、何をされてたんでしたっけ？。

I： あ、営業マンです。

T： え、どういう感じの...

I： あの、【企業名】の販売してます〈はい〉。

あの、ダンプトラック〈は一〉。

わかりますか、【企業名】の。

T： はい。

I： はい。

T： おうちで、お仕事の話とかされますか？。

I： あ、そうですね。

T： 大変な。

I： 大変な。

あー、あの、あの会社、いちばんライバルというか、あの、【企業名】のダンプがね、ほかのダンプ、これば、あ、そうですね、くらべば〈はい〉、【企業名】のほうが高いって。

T： あ、そうなんですか、ふーん。

I： でも、どうしても、なんていうかな、あの、安くできないんだって〈うん〉。

やく、安くしたら、こっちは大変になるから...

T： こっちのほうが大変になるから？。

I： あの、自分のかいし、自分の会社というか、あの、勤めてる会社、【企業名】の。

T： はい、はい。

I： はい。

なんでほかのの会社は安くできるかな、そういう話〈はい〉。

で、あたしがね、うーん、そうですね、なんであなたのダンプがね〈はい〉、【企業名】、【企業名】、【企業名】〈はい〉ダンプがね、ちょこっとでも安くすれば〈はい〉、なんか、しょ、

しよ、なんというかな、あの、勝負〈はい〉、勝負というか、うーん、その考えもいいんだけど、でも、大変だっていう、そういう話ね。

T： あー、なかなか大変なんですね。

I： なかなか、はい〈はい〉。

で、いつも、主人も、こっちからの話も聞きたいし、きよ、今日の一日どうですかって〈うんうん、うん〉。

うん、ちょっと大変ですねって〈うん〉。

あー、そうですかって。

T： {笑}、〈{笑}〉え、【I】さんのお仕事は、え...

I： 今は〈はい〉、あの、日本語指導^〈はい〉の仕事はしてます。

T： どういうことを、どういう時間でやってらっしゃるんですか？。

I： 最初の仕事は、英語教師^〈はい〉の仕事してるんですけども、そっちから【人名2】先生への紹介なんですけども〈はい〉、で、1年終わってから、まだ1年になってないけども、途中で〈はい〉、なんか、あの、【人名2】先生がね、フィリピンからの〈はい〉子どもがね、あの、連れ子なんですけども〈はい〉、あの、8歳、向こうで2年生ですけども、8歳の男の子〈はい〉なんだってね。

全然、ゼロ。

日本語の話はできないし、理解もできないし〈はい〉、もしかして〈はい〉、あの、【I】さんの力も、かれるかな、と思ったんですよ〈はい〉、【人名2】先生がね〈はい〉。

でも、あたしは、まだ英語教師やってるから。

でも、あの、1年間の契約〈はい〉。

で、次の年は、まだわからないの。

まだ、英語教師、や、やるかな {手を叩く} 〈はい〉。

で、あの、教頭先生がね〈はい〉、あたしのことを呼んで〈はい〉、いや、もしかして、【I】先生の英語の授業はね、とってもいいから〈はい〉また来年もよろしくお願ひしますと言われたんですけども〈はい〉、そういう話は、【人名2】先生の話は、もう、決まったんですよ。

あの、向こうからの男の子の、8歳の〈はい〉男の子がね〈はい〉、この年で来るから〈はい〉、来年来るから。

だから、【I】先生の力は〈はい〉、あなたしかいないから〈うん〉、たぶん、こういう仕事させるんですよって〈うんうん〉。

あ、教頭先生がね、あ、そうですかって。

いや、うちも、まったー、あの、英語の、ていうか、そ、まだ、あの、続けたいから〈はい〉、はー、すみません、あの、次の仕事決まったんで〈はい〉。

あ、そうですかって。

T： ふーん。

両方するわけには、いかなかったんですか？。

I： 両方というか...

T： 英語と日本語。

I： 英語と日本語、はい。

T： 両方は、どうして、駄目なん、時間ですか？。

I：そうですね〈あー〉。

時間というか、そうですね、あの、今の仕事は6時間、毎日6時間〈あー〉、1時間目から、朝の会から。

T：え、その1人のお子さんに対して？。

I：はい。

最初の1年、1年生のときは〈はい〉、ほんとにまい、あの、1日でこういう状態で〈はい〉。

やっぱり、ゼ、ゼロなんだから〈はい〉、もう{手を叩く}、おはようございますというか、もう、全然わからないから〈は、はい〉、ほら、あの、1年生のときは、ほんとに、ぴ、な、なん、なんというんだっけ、はなさない状態で〈はい〉、で、2年生の、2年生のときは、2、2学期のとき〈はい〉、校長先生がね、うーん、もう少し距離がね〈はい〉、離れてほしいなって〈はい〉。

やってみないかって〈はい〉。

あ、いいですよって。

どうしてもわからないときは、合図〈はい〉、あの子がね、あい、手上げて、あ、【I】先生の力〈ふーん〉借りたいなと思ったときは、いってもいいよって〈うん〉。

あと、今の状態もそういう、なるべく、あの、距離がね。

T：うん。

どうですか、それ、やってらして？。

I：いや〈ええ〉、最初のもは大変でした〈はい〉。

なんで、あたしこういう仕事すたなと思いつながら〈うん〉、英語教師のときは、やっぱり楽でした、はい。

T：うん。

そ、どういうふうに、どうして楽だったんですか？。

I：どういうふうについていうか、やっぱり、あの、クラスはね、みんな教えるんじゃないですか〈はい〉。

じゃ、わたしの授業は、今日の授業は、こういう授業だよって〈はい〉、自分で作って。

T：はい。

I：はい。

で、みんなはね、あ、はい、わかりましたって。

やっぱり、あの、わたしの、なんていうかな、言うとおりに、みんなも、やってるんですね。

今の状態は、担任の先生いるんじゃないですか〈はい〉。

あと、カラス[クラス]もいるんじゃないですか〈はい〉。

あの、担任の先生の教えてること〈はい〉、この男に教えない、きゃ、ならないから〈はい〉。

で、男の子もね、とつても、なんていうかな、ほんとに理解できないから、最初のごろ[頃]は。

T：はい。

なにが理解できないんですか？。

I：やっぱり担任の先生の言ってること。

T：日本語が、はい。

I : 日本語が。

T : はい。

I : はい。

授業もね〈はい〉, 国語, 国語, 算数。

体育は, やっぱり, みんなやってること真似すれば〈うん〉いいんじゃないですか〈うん〉。

でも授業のときはほんとに, 文, 書かなきゃいけないから。

T : うん。

I : はい。

あと, お友だちと話すする〈うん〉言葉とか, なんか, あれ, やっぱり違うなって〈うん〉。

いや, 正しくはないよ, あなたの言ってることは〈うん〉って, それは正しくない, 言われたときは, あ, わたしも悪いから, やっぱり〈{笑}〉 {笑}。

T : あの, そういうフィリピンの1人の男の子に, え, 【I】さんが, ずっと, ついていらっしゃるのには, 税金が使われてるんですよ。

I : はい。

T : それで, 日本人の子どもでも, あんまり勉強できない子がいるかもしれないけど, それに, その子には誰もつかないわけですね。

I : いや。

ついていけない子もいるですよ。

でもうちの学校はサポーターという〈はい〉かたが, 結構〈うん〉いらっしゃいので, 例えば, なんていうかな, 言いたくないけど, 障害者の場合。

T : はいはい。

I : はい。

T : ですが, 1人のお子さんに, ずっとついてる, 税金を使って不公平だっていうのは, 考え方はないんですかね?。

I : いや...

T : 例えば, うちの子も勉強できないから, 誰かつけてほしいわ, とか。

I : あ, そういう。

あー, そうですね。

T : どうでしょうか?。

*...

I : 最初の, 最初のごろ [頃] はね, なんていうかな, いや, わたしは, ほかのの子が一生懸命教えてるんですけども, うちの子は今, どうしてるかな, そういう, あるんですよ, そういう心配というか, 考え方〈うん〉。

で, うちの, うちの息子の場合はやっぱり, あの, 日本人とフィリピン人のお母さんの間に生まれたから〈はい〉, どうしても足りない部分はあるんですね。

T : はい。

I : はい。

だから, ちょっと, はい, そういう心配もあるんですよ。

T : そういう心配っていうのは, お子さんにもつけてほしいっていう, そういうこと...

I : いや, そうでもないけど〈はい〉, うちの, うちの息子はね, 最初のごろ [頃] は, ちょっ

と、たぶん今までも、ひっかかっているんですね、国語の。

T： はい。

I： はい。

T： はい。

国語...

I： あたし、あたしのせいかもしれない。

小さいときは一生懸命バイリングワルで〈はい〉、前もいっているんですね〈はい〉。

あの、あの、わたしの家族にも通じるように〈はい〉、英語で一生懸命教えてるんですよ。

で、駄目というか、誰もゆ、言われなくても、やっぱり無理かな。

どうしても日本にいるから、どうしても〈{笑}〉日本語しか、喋る言葉だから。

でも、こっちは一生懸命、英語で教えてるんですよ〈うん〉。

なぜというか、おっき、おっきくなっても、例えば、あの、がいごく [外国] に行っても、やっぱりどこに行っても世界中で〈うん〉英語〈はい〉通じるから、そういう考えは〈うん〉あるんですよ。

T： そうですね。

I： はい。

で、里帰りに行っても、やっぱり大変ですね〈うん〉。

うちの息子が日本語しか、喋れないから、なんか、大変と思います。

T： うん。

その、言葉の問題は〈はい〉なかなか難しいかなど。

I： 難しいですね、はい。

T： えーと、じゃ、ちょっと、話を変えるんですけど〈はい〉、オリンピックはご覧になりましたか？。

I： あー、そうですね、はい。

感動しました。

T： え、お、どのへ、どういうあたり？。

I： やっぱり日本の応援してるから。

T： あー。

I： はい。

T： フィリピンの応援...

I： やっぱり日本の場面しか見られないですね。

T： あー、放送の問題ですかね。

I： そうで、放送の問題っていうか、そうですね、はい。

でも、やっぱり日本にいるから〈うん〉、じゃ、日本のチーム応援しなきゃいけないという〈うん〉、家族で。

T： はい {笑}。

I： はい、そうですね。

T： どこがいちばん感動的でした？。

I： あ、北島です {笑}。

T： え？。

I : きた、スイミングのき、あの、北島さん。
T : あー。
えーと、北島は、ど、ど、どのあたりが良かったですか？。
I : やっぱり、あの、シングル [シングル] の、なんていうかな、なん、な、なんめやったんな、
に、200メートル、200メートルの。
T : はい。
I : はい。
そういう、わたしがね、それしか見られ、見られてないから。
T : はい。
I : はい。
で、あ、金メダル取ったよ。
やっぱりあたし、あの、だいたいところ [台所]、仕事しながら〈はい〉見てるから〈ええ、ええ〉。
で、うちのパパ、あ、金取ったよって〈はい〉。
あ、あ、ほんとになって〈あー〉。
で、レプレ [リプレイ] もできるんですね。
T : ん？。
あ...
I : あの、遅い時間で〈はい〉ニュースとか。
あー、取ったなって。
T : あー。
I : んー。
あの、全部の見えなかったんですけども〈はい〉、やっぱり、テレビの何回も見てるから〈うんうん〉、あー、頑張ったなって。
日本すごいなって。
T : うん。
I : はい。
あと、なんていうかな、あたし英語しか分からないけど、ジмнаスティック〈はい〉、あの、1人の男の人。
T : どんな動きをする...
I : あの、鉄棒で。
T : 鉄棒で。
I : はい。
T : はいはい。
I : それも金取ったんですね。
T : あー。
I : はい。
T : あー、わたしもほとんど見なかったので {笑}。
I : あとレスリングの姉妹。
T : はいはい。

I : はい。
T : はい。
スポーツってやっぱりすごい...
I : あのとき...
あ、スポーツは、に、苦手ですよ〈はい〉。
自分はできないから。
T : はい。
I : はい。
見るだけは、す、好きだけでも〈あー〉。
でも、や、野球のチームはね、ちょっと、あーって {笑} 〈 {笑} 〉。
もうちょっと、頑張ってほしいなって〈あー〉。
あと一番、かん、あ、そうですね、一番感動しましたのが、あの、ソフ、あの、ベースボール
の、ソ、ソフ、ソフト。
T : はい。
I : はい。
T : あー、ソフトボール。
I : あの、女性の。
T : はい。
I : はい。
チーム。
そ、ソフトボールの。
T : どのあたりが感動的だったんですか？
I : あら、す、何ていうかな、なんか、ぎりぎりですね、あの、点、点数が〈ふーん〉。
やっぱり相手はアメリカだから〈うん〉、あ、勝つわけないでしょって〈 {笑} 〉。
息子も、そうだよなって〈ふーん〉。
アメリカ強いから。
えー、でも頑張ったなって。
T : うーん。
フィリピンの応援は、なさらなかったんですか？
I : いや、たぶんボクシング、一番強いのはボクシングだって。
T : はい。
I : はい。
あと、バスケットボールでも。
やー、オリン、オリンピックに行けば大したことないかなって {笑} 〈 {笑} 〉、はい。
でも日本のばみ [場面] しか、はい、見られないから〈うん〉、一生懸命、日本のチーム〈はい〉、
応援したんですよ。
T : あー。
I : はい。
T : あ、フィリピンの放送、やっぱ、あんまり、フィリピンに行かないと見られないですよ。
I : うーん、そうで、そうですね。

T： うん。
I： はい。
T： そのへんはどうですか？。
日本は、日本ばかり放送して、変じゃないかとか {笑}。
I： そうですね。
やっぱり、あの、国際というかな、あの、国際番組〈はい〉という、あるんですけども、うちのテレビはスカイパないから。
T： あー。
I： はい。
BSしか。
T： はい。
I： はい。
見られるから。
T： はい。
I： はい〈うん〉。
でもインターネットで調べることができるんですね。
T： はい。
I： はい。
す、でも、やっぱりテレビのほうが一番いいかなって思いました。
T： あ、そうですか、はい。
I： はい。
あの、家族で一緒に見られるから。
インターネットだと、1人だけですね。
T： はい。
I： はい。
やっぱりテレビのほうが一番いいかな〈うーん〉。
あの、コミュニケーションしながら。
T： うーん。
I： はい。
テレビ見ながら。
T： うん。
I： はい。
T： 見られるということなんですね。
I： そうですね、はい。
T： えーと、そうですね。
じゃ、1つ、ちょっと、ロールプレイをやっていただこうかな。
I： あっ。
T： これ。
I： これは一番怖いですね {笑}。
T： あー、そんなことないです。

これ、ちょっと、読んでいただいていたいいですか？。

I： はい。

T： 声出していいです、いいですか？。

I： はい。
来月〈はい〉，退職する人の送別会をします。
その人にあげるプレゼントを買うお金を集めています。
でも、あなたはお金を出し...

T： 出したくありま...

I： 出したくありません。
あー、断ってください。

T： はい。
じゃ...

I： あ、そうですね。

T： あの、裏側に、英語もあるんですけど〈はい〉。
あの、同じ、一応、ちょっと、職場ということにしましょう。
仕事の、と、仕事、一緒に、やってる。
仕事をしているところで、誰かが...

I： あれ、{カードに書かれた英語を読む}，えー、断ることができるんですか？。

T： はい。

I： わたしは1回も断ることはありませんから。

T： あー、わかりました〈はい〉。
じゃ、違うのにしましょう。
断り、はい。

I： やっぱり、あの、日本の...

T： うーん、こと...

I： あの、文化というか。

T： うーん。

I： はい。

T： はい、じゃ、これはどうでしょうか？。

I： はい。

T： はい {笑}。
もう一度、声出していただいていたいいですか。

I： あなたは車を修理に出しましたが、まだできていません。
急に車を使う用事ができたので、はじめの予定より早く仕上げるように、電話でお願いしてください。

T： はい。

I： あ、はい。

T： わたしは修理工場。

I： はい。

T： はい、えー、【地名2】修理工場でございます。

I : あ、もしもし。
T : はい。
I : あ、【I (フルネーム)】です。
どうもー。
T : あ、はい、お世話なってます。
I : えーと、昨日、あたしの車、そっちで修理、修理に出したんですけども。
T : はい、お預かりしております。
I : えっと、どうですか？
T : はい、えっと、えー、金曜日に仕上がる、あと3日で仕上げということになっておりますが。
I : あ、そうですか。
T : はい。
I : えーと、あすた [あした]、研修会へ行く、行くので〈はい〉、どうしてもあすた [あした] の10時までには、できないか？
T : あー、ちょっと部品を取り寄せないといけなくて、ほんとに申し訳ないんですが、どんなに急いでも木曜日まで、あと2日はお待ちいただかないと、ちょっと無理なんですけど。
I : あー、困りますね。
どうしてもできないですか、あしたの？
T : あ、はい、ほんとに申し訳ないです。
あの、部品がどうしても、えー、部品の入荷が、明後日になってしましまして、申し訳ないんですが、もうちょっとお待ちいただくわけにはいきませんかでしょうか。
I : いや、こっちも困りますので、そっちはなんとかやってください。
T : そうですね。
もしかして代車でもよろしいでしょうか？
I : いや、代車？
代車はね、わたしはマニュアル [マニュアル] しか運転のことでできるから、ちょっと、オートマだったら、ちょっと不安なので〈はい〉、マニュアル [マニュアル] あれば...
T : はい。
I : はい。
大丈夫ですよ。
T : あ、では、あの、マニュアルの代車を用意するということで、ちょっと、あの、お待ちいただくということでよろしいですか？
I : あ、いいですか？
T : はい。
I : 大丈夫ですか？
T : はい。
じゃ、あしたまでに、あの、用意しておきますので〈はい〉、それでよろしく願います。
I : あー、良かったですね。
すいません。
じゃ、あした、待ってますので〈はい〉、よろしく願います。
T : こちらこそ、どうもお世話になります。

I : あ, どうも。
T : はい。
 ありがとうございます。
 ほんとに【地名2】だと車がないと, とても〈はい〉生活できないんですよ。
I : はい。
T : あの, いらしてすぐは, 車は運転なさってなかったんですよ?。
I : いや, 最初のごろ [頃] は1年間。
T : はい。
I : はい。
T : 我慢して。
I : 主人の。
 我慢し, 我慢してというか, アパートから〈はい〉近い, なんですよ, あの, しゃ, あの, 仕事する場所が。
T : はい。
I : はい。
 でも, じでん, じでんしゃ [自転車] は乗らないから〈はい〉, 朝はうちの主人送って〈はい〉, で, 帰りはバスあるんですけども〈はい〉, しばらく待たなきゃいけないんですよ〈はい〉。
 で, うちの先輩が, じゃ, あたし, 送っていくか, うちまで〈ほー〉, どちらでも時間は同じだ。
 ほんとにおかげさんで, あの先輩のおかげさんで〈{笑}〉, はい。
T : いい方に, じゃ, 恵まれてここまでいらしたってことですよ。
I : そうですね, そうですね, はい。
T : たぶん【I】さんの, この性格が〈{笑}〉。
 すぐ, みなさんと友だちになるっていうあたりで良かったですね。
I : そう, そうですか {笑} ?。
T : はい。
I : はい。
T : えー, 今日ほんとにインタビューありがとうございました。
I : あ, いいえ。
T : きっとまた, 帰ってご飯を作らなきゃいけない時間...
I : いや, お迎えに行かなきゃならないから。
T : あ, わかりました。
I : ほんとは部活の時間はいつも6時45分ですけども, 雨降って体育館で〈はい〉ランニングだけで。
T : あー。
I : はい。
T : じゃ, 終わりましょう。
 急いで行ってください。
I : あ, そうですか。
 はい, すみません。

T： はい，ありがとう {笑} ございました。

I： ありがとうございます。

T： はい。

I： あー，緊張した {笑} 。